

1. 根室市水道ビジョン策定にあたって

1-1 水道ビジョン策定の趣旨

根室市の水道は、明治 29 年に市内有磯町の貯水池を水源に根室水道として給水を開始して以来、110 年以上が経過している日本でも古い歴史を有する水道です。

安全で安定した飲料水の供給を目指し、昭和 31 年に温根沼・丹根沼に牧の内第 1 ポンプ場、昭和 32 年には桂木浄水場が建設され、根室町上水道として給水を始めており、その後、給水人口の増加に伴う三番川・五番川ポンプ場の建設や水道管の整備を行い、現在 99%以上の市民に水道水を供給しています。

しかしながら、当市の人口は、昭和 44 年の 49,974 人をピークに減少が続いており、近年の少子高齢化や経済環境の低迷、また節水意識の高まりなどにより、水需要の伸びが期待できない状況の中、水道施設の老朽化対策や大規模地震に対する災害対策などの費用の増加、また、環境やエネルギー問題にも配慮が必要になっています。

厚生労働省は平成 16 年度に「水道ビジョン」を公表して以来、これまで、「水道の運営基盤の強化」、「安心・快適な給水の確保」、「災害対策等の充実」、「環境・エネルギー対策の強化」などの観点から、各施策の推進に努力することを推奨してきました。また、平成 25 年には、日本の総人口減少による給水人口や給水量が減少し続ける中で、「老朽化施設の更新需要」に対応する時代の到来や、東日本大震災の経験を踏まえた「危機管理の策」を講じる時代に挑戦するため「新水道ビジョン」を公表したところです。

北海道は、平成 23 年に公表した「北海道水道ビジョン」の中で「人口減少」、「水需要の低下に伴う料金収入の減少」、「水道施設の老朽化」、「水道従事者における技術の継承」などを課題として、各主体の役割の中で、水道事業者に対して自らが「水道ビジョン」を策定し、地域の課題解決に向けた将来構想に取り組むことを求めています。

水道は、私達の日常生活に欠くことの出来ないライフラインであり、将来的にも常に「安全」な水質の水道水を、市民の皆さんが「安心」して飲むことができ、「安定的」に供給されることが必要です。

このようなことから、根室市の水道事業における現状と課題・問題点等を把握した上で、事業を持続するための改善方策や目標となる将来像を明確に示し、市民・企業・水道関係者が共通の認識に立ち、将来にわたり安心できる水を安定的に供給し、次世代に継承するにふさわしい水道を構築するために「根室市水道ビジョン」を策定しました。

1-2 水道ビジョンの位置付け

水道は市民生活や社会経済活動に不可欠な社会基盤として定着している現在、一時的な断水であってもその影響は大きいことから、長期的な視点に立って、今後の施設更新事業の見通し、更新に際しての費用対効果や目標像が重要であり、地域水道ビジョンは、図-1に示すとおり、水道事業の基本計画（マスタープラン）となるものです。

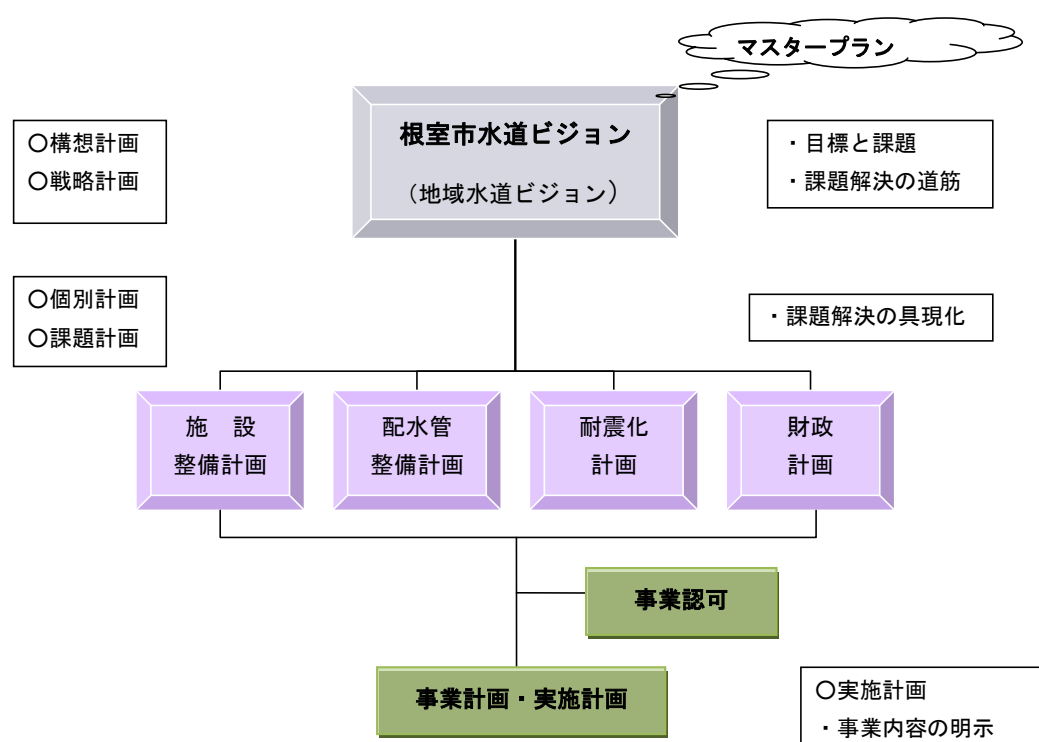


図-1 水道ビジョンの位置付け

本水道ビジョンでは、給水量、給水人口等の事業計画に関する事項や財政収支・組織経営体制等の経営基盤に関する事項、災害対策や環境保全に関する事項などについて、総合的な観点から事業の現状と将来の見通しを定量的に分析、評価し、新水道ビジョンに掲げられた政策課題、「持続」、「安全」、「強靱」のほか、地域特性を踏まえた課題に対する目標を設定し、目標を実現する具体的施策について、施設整備のハード面、運営・管理等のソフト面から検討し、工程等をまとめます。

1-3 計画期間

本ビジョンの計画期間は概ね10年間とし、50年、100年先の将来を見据えた水道事業の理想像を示します。